

# 救急隊の感染防止対策への メディカルコントロール協議会の役割

堺市立総合医療センター

森田正則

# はじめに

- 救急業務における感染防止に関しては、これまでも様々な対策が行われてきた。しかし近年、感染症の国際的な拡大が懸念されている中、今後、我が国においても大規模な国際的イベントを控えており、救急隊の感染防止対策強化が望まれている。

# 救急隊の感染防止対策の推進について

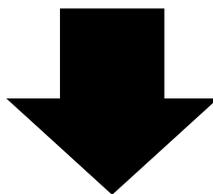
(通知)消防救第49号 平成31年3月28日

1. 感染防止対策マニュアルの策定
2. 消防機関における感染防止管理体制の構築など  
感染防止の取組
3. 救急隊員の血中抗体検査及びワクチン接種の実施

# 1. 感染防止対策マニュアル策定

平成29年度「感染防止対策に関する現況調査」  
(消防庁)

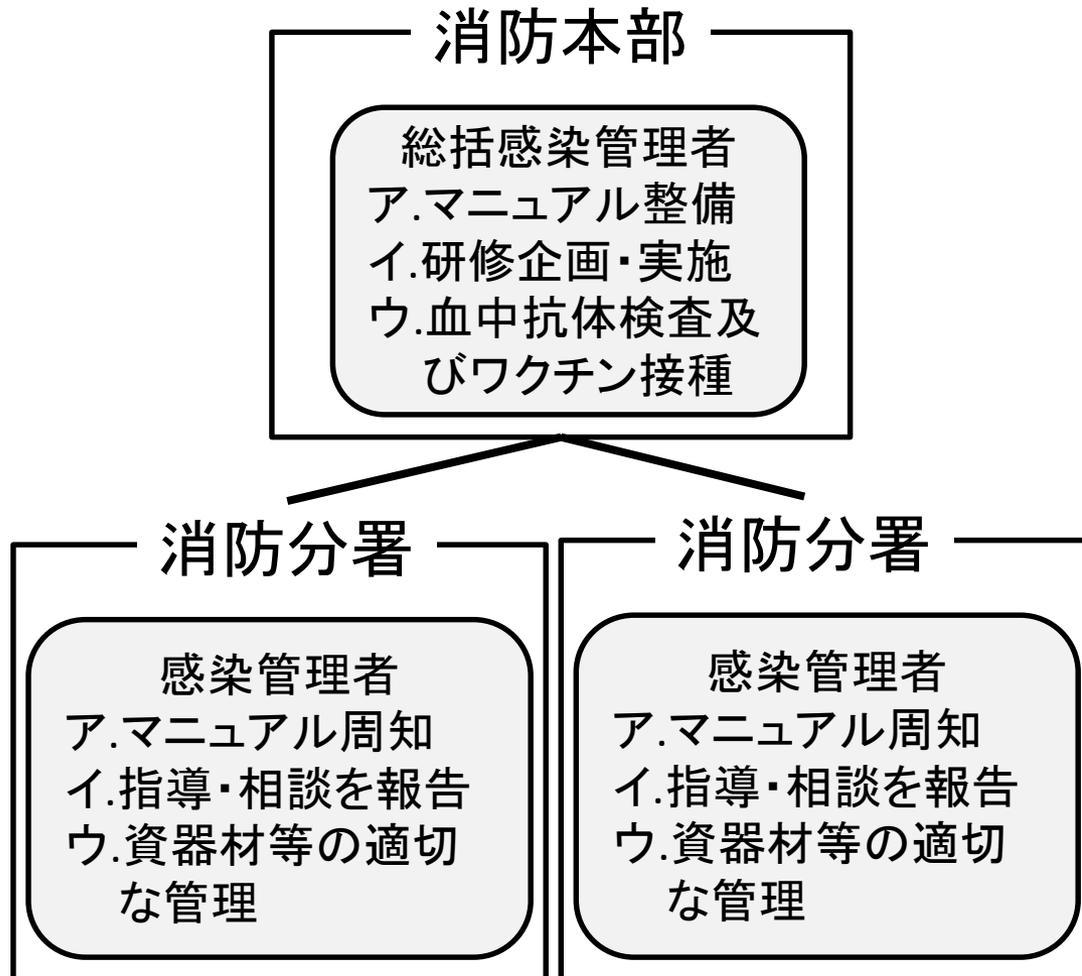
- 感染防止対策マニュアルが整備されている 48%
- 医療関係者の監修を受けている 22%



- 救急隊の感染防止対策マニュアル(vol.1.0)が策定

平成 31年3月28日

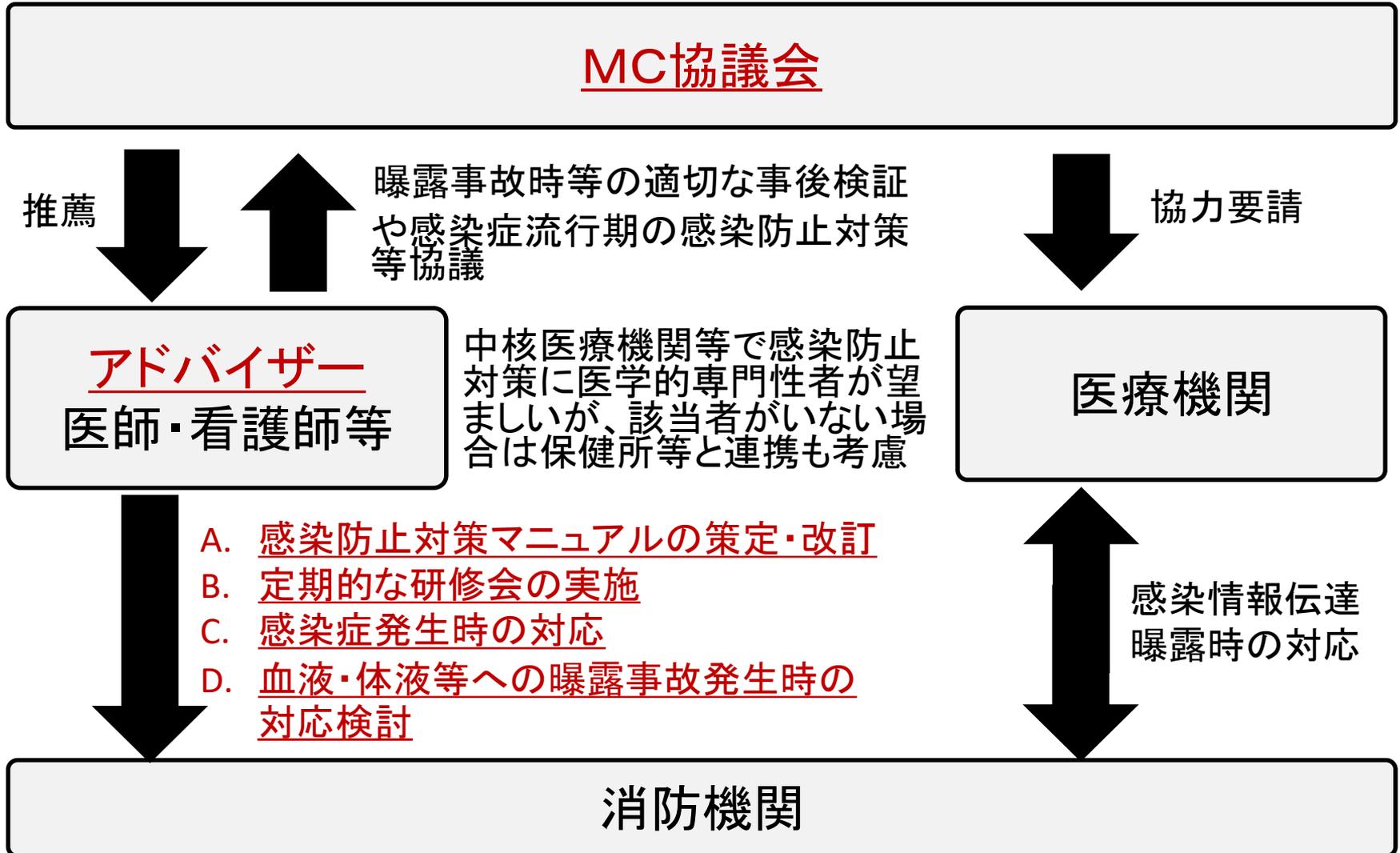
## 2. 消防機関における感染防止管理体制



- 消防機関における感染防止管理に係る医学的な質の保証感染防止対策については、医学的な質の保証や最新の知見に基づいた定期的なアップデートが求められるため、医療関係者との協力体制を構築することが重要であると考えられる。

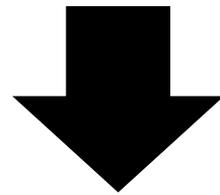
**メディカルコントロール(MC)協議会の役割が不可欠**

# MC協議会の具体的な役割



# A. マニュアル整備

- 救急隊の感染防止対策マニュアル(vol.1.0)が策定



各消防本部で地域の実情に合った必要に応じて感染管理者等やアドバイザー(医師・看護師等)の意見も参考に感染防止対策マニュアルの作成、改訂が必要

## B. 定期的(年1回)な研修会の実施

### 消防機関における感染防止管理研修内容

- 標準予防策
- 感染経路別予防策
- リネン、救急車両の取扱い
- 感染性廃棄物の処理
- 再利用器具の洗浄、消毒、滅菌の方法
- 血液・体液等への曝露事故発生時の対応
- ワクチン管理の重要性

すべての救急隊員が対象

# 傷病者接触時の対策

---

	(%)
N-95マスクが直ちに使用できるよう用意されている	99%
救急現場で対応する際、全症例に標準予防策を行っている	94%
留置針は針刺し防止機能付きのものを使用していますか	93%
気管挿管を行う際には、感染が疑われない場合であっても目の保護具(ゴーグル等)とサージカルマスクをどちらも装着している	23%

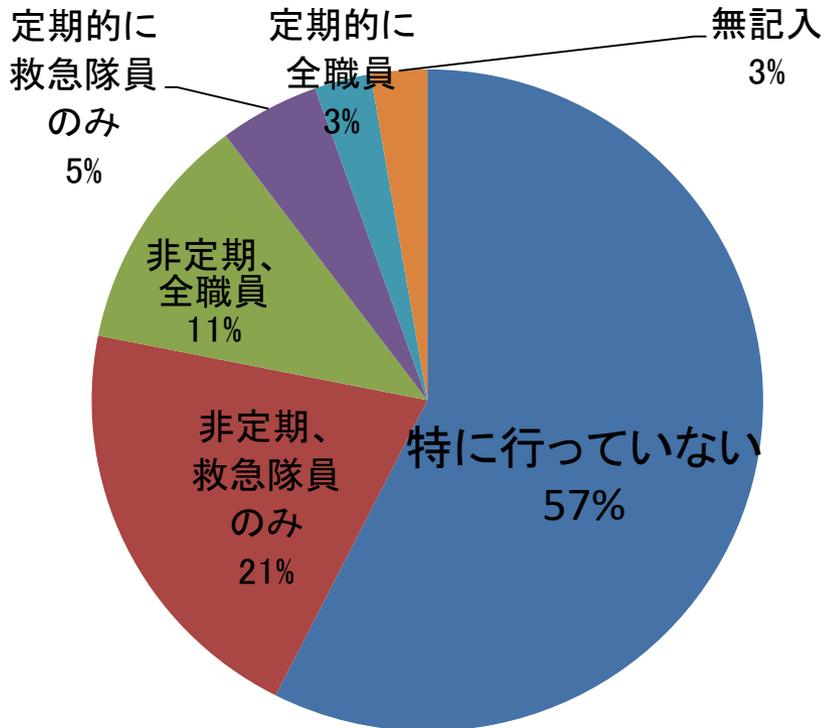
---

病院前救護活動における感染対策の現状と課題,日臨救急医学会誌2018;21:572-7

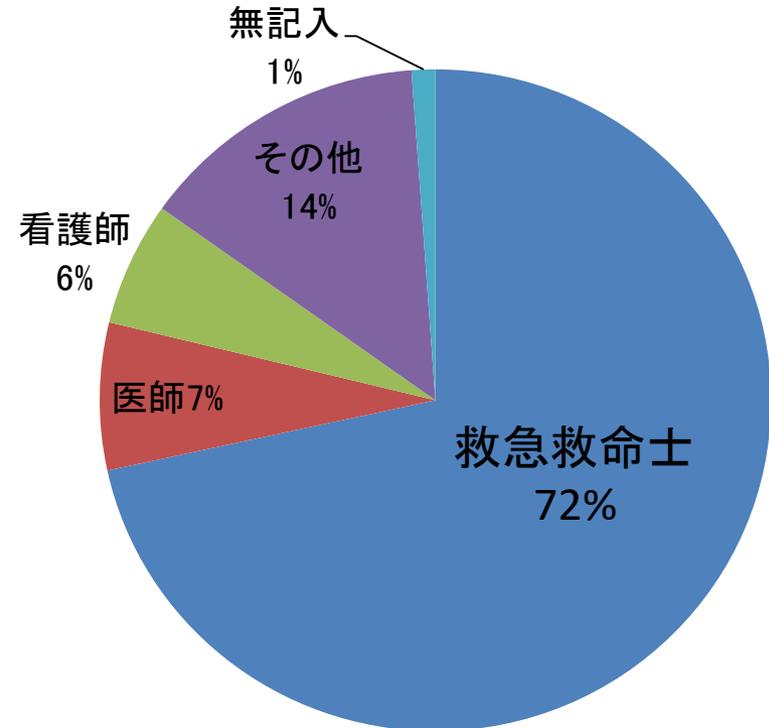
知識のアップデートが必要

# 感染対策に関する教育

感染制御に関する研修を定期的におこなっているか



感染制御に関する研修は誰が行っているか



病院前救護活動における感染対策の現状と課題,日臨救急医学会誌2018;21:572-7

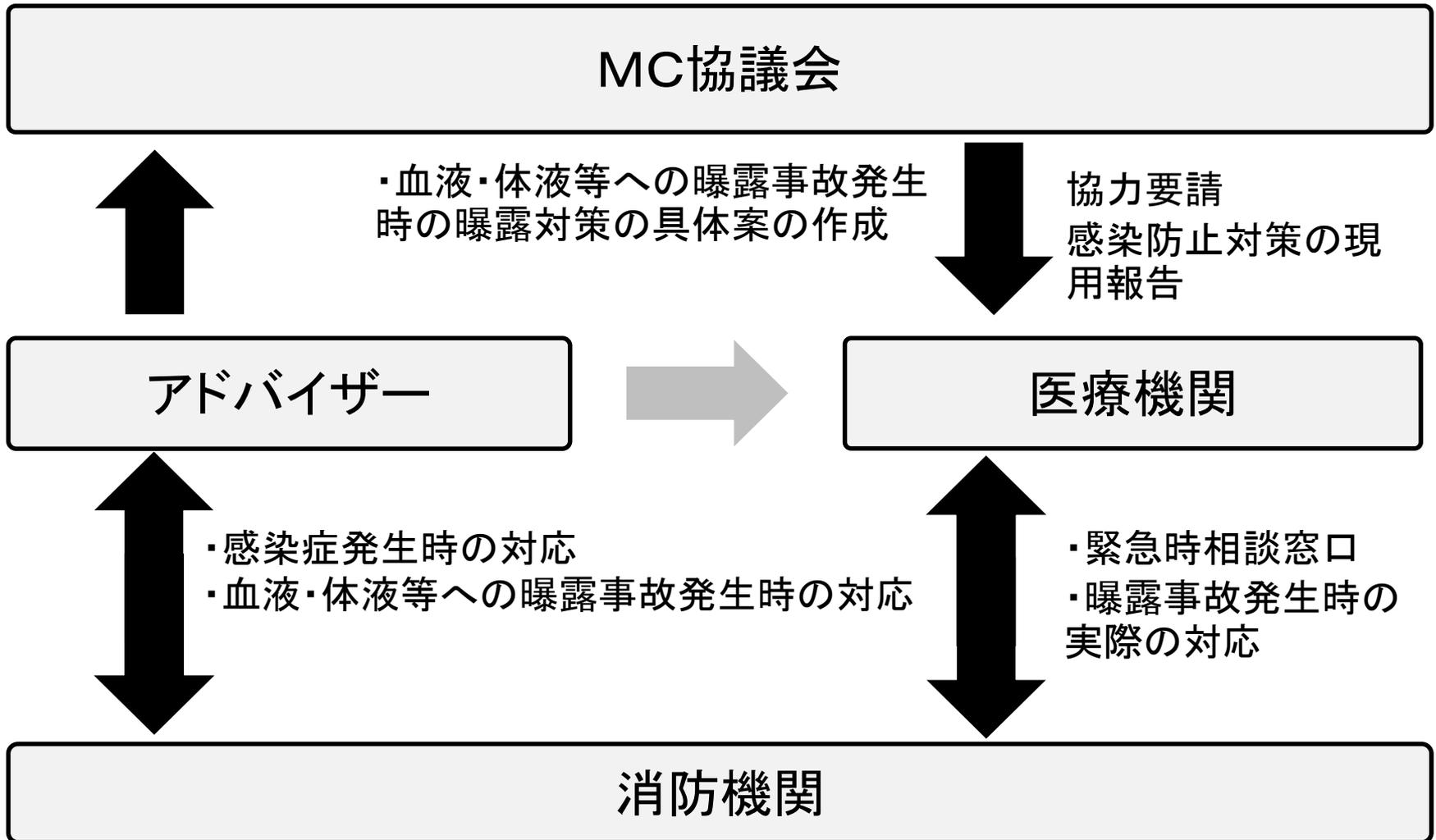
**研修を行う際に医学的な質の保証が必要**

## C. 感染症発生時の対応

- 結核など空気感染が疑われる場合の対応  
空気感染をどの時点で疑うか？  
どのような対策が必要か？  
空気感染予防策はいつから始めるか？  
搬送先医療機関へはどのような情報が必要か？

具体的な対応策の検討

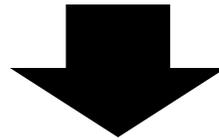
# D. 感染曝露発生時の対応検討



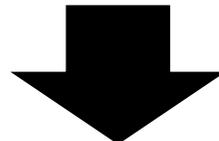
# 救急隊の曝露事故時の対応について

針刺し事故等によるHIV感染防止対策について

(平成9年8月1日付け消防救第177号消防庁救急救助課長通知)



各消防機関で曝露事故時の対応や受診手順、  
対応医療機関の選定、医療機関と協力体制



HIV感染に関する新たな知見

定期的な見直しが必要

# 感染曝露された場合の対応の実際

---

	(%)
何か感染対策に関連した事象が発生した場合に、相談して指示を受けられる窓口(医療機関, 保健所, 衛生局)が確保されている	84%
職員の感染曝露(針刺しなど)発生時に、特定の医療機関と協力体制(電話相談など含め)は確立している	49%
協力医療機関は、24時間体制で応じてくれる	46%
<u>針刺しが発生した場合の対応マニュアルがある</u>	<u>45%</u>
<u>これまで、組織内で針刺しが起こったことがある</u>	<u>36%</u>
針刺しが起こった際、対応に困った点があった	7%

---

### 3. 血中抗体検査及びワクチン接種

#### 平成27年度調査

- 麻疹 20.9%
- 水痘 19.9%
- 風しん 21.2%
- ムンプス 20.5%
- HBV 94.6%
- その他 21.4%

(破傷風など)

#### 今後は強く推奨

- 麻疹
- 水痘
- 風しん
- ムンプス
- HBV
- 破傷風

# 救急医療全体の感染防止対策改善を目指して

- 消防機関における感染防止対策改善は、医療機関での感染防止対策改善に直結している。
- 消防機関と医療機関の協力体制構築が不可欠であり、MC協議会が重要な役割を果たす必要がある。